

「認知症にやさしい地域づくり」日英豪グローバル専門家会合

日本を筆頭に世界各国では、長寿による高齢化が進み、我が国でも、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域包括ケアシステムの構築が求められています。認知症分野でも同様の認識の下、認知症になっても可能な限り住み慣れた地域の良い環境で暮らし続けるために、「認知症にやさしい地域づくり」が各地域で進められています。こうした環境づくりでは、認知症の人や家族の多様なニーズを受け止め、効果的に実現していくことが期待されています。

特に認知症と診断されてから、医療・介護サービスが本格的に必要なまでの期間は、本人や家族が認知症と共に生きる体制を整える大切な時間とされています。こうした診断直後の期間に、就労や社会参加の機会など社会の接点があることで、認知症の人が社会の一員としての役割を持ち続け、認知症と共に暮らしやすい環境をつくることできるとも期待されています。さらには、医療・介護サービス提供者だけでなく、地域住民や企業などマルチステークホルダーが連携し、「認知症の人や家族」と「地域社会」とのつながりを生み出すことも求められています。本会合では、「認知症にやさしい地域づくり」に向けて、「認知症の人や家族」と「地域社会」とのつながりを生み出すための国内外での実践例や課題を互いに紹介し、日英豪の専門家による議論を深め、今後のあるべき打ち手を検討します。

- **日時：** 2019年2月14日（木）13:00-17:00（開場・受付開始：12:30）
- **会場：** 学士会館 203（東京都千代田区神田錦町 3-28）
- **主催：** 特定非営利活動法人 日本医療政策機構
- **後援：** 認知症未来共創ハブ
- **プログラム：**（敬称略）
- 12:30- 開場
- 13:00-13:05 **開会の辞**
黒川 清（日本医療政策機構 代表理事）
- 13:05-13:10 **趣旨説明**
栗田 駿一郎（日本医療政策機構 シニアアソシエイト）
- 13:10-13:30 **基調講演1「日本における認知症にやさしい地域づくりの推進」**
田中 規倫（厚生労働省 老健局総務課 認知症施策推進室 室長）
- 13:30-13:50 **基調講演2「認知症国家戦略とアルツハイマースコットランドの取り組み」**
ピアソン ジム（アルツハイマースコットランド ポリシー・リサーチ ディレクター）
- 13:50-14:10 **基調講演3「認知症ナショナルフレームワークとディメンシアオーストラリアの取り組み」**
マッカーシー スーザン（ディメンシア オーストラリア クライアントサービス部
エグゼクティブディレクター）
- 14:20-15:50 **ラウンドテーブルディスカッション1**
「認知症の人が社会の一員として暮らすための課題と展望 ～現場の視点から考える～」
- 15:50-16:55 **ラウンドテーブルディスカッション2**
「既存の保健医療システムの課題と展望 ～認知症の人の尊厳ある暮らしの実現に向けて～」
- 16:55-17:00 **閉会・今後の取り組み予定**
乗竹 亮治（日本医療政策機構 理事・事務局長）

※同時通訳あり

■ ラウンドテーブルディスカッションについて：

➤ ラウンドテーブルディスカッション 1

「認知症の人が社会の一員として暮らすための課題と展望 ～現場の視点から考える～」

このセッションでは、認知症の人や家族と地域社会をつなげるべく、現場の最前線で日々奮闘する日英豪のプロフェッショナルが議論します。冒頭には各国からの事例紹介を設けることで制度の違いを理解しつつ、認知症の人が社会の一員としての役割を持ち、さらには活躍できる環境を生み出すための知恵と工夫を共有します。

14:20-14:55 登壇者からの実践事例紹介

14:55-15:50 ディスカッション

【登壇者】（敬称略）

猿渡 進平（大牟田市役所 相談支援包括化推進員／白川病院地域医療連携室 室長）

澤登 久雄（社会医療法人財団 仁医会 牧田総合病院 地域ささえあいセンター センター長）

山崎 健一（GrASP 株式会社 代表取締役社長／若年性認知症デイサービス トポスと果 代表）

ヴォイト リンゼイ（アルツハイマーススコットランド リンクワーカー）

リエットディック アンナ マリア（ディメンシア オーストラリア ディメンシアアドバイザー）

進行：

進藤 由美（国立長寿医療研究センター 企画戦略局 リサーチコーディネーター）

➤ ラウンドテーブルディスカッション 2

「既存の保健医療システムの課題と展望 ～認知症の人の尊厳ある暮らしの実現に向けて～」

このセッションでは、直前のセッションを踏まえて、既存のヘルスケアシステムの解決すべき課題やあるべき姿について議論します。日々現場で奮闘するプロフェッショナルを支えるためにも、志のある住民や市民の参画の促進も大きな課題であり、地域の担い手不足は日本のみならず高齢化する先進国の課題です。専門職のみに頼るだけでなく、地域住民も含めて、認知症の人が社会の一員として尊厳のある暮らしを実現するために、日英豪の取り組みや課題を相互に共有し、あるべき姿を考えます。

【登壇者】（敬称略）

栗田 主一（東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長）

余語 卓人（厚生労働省 老健局総務課 認知症施策推進室 室長補佐）

ビーティー ジャン（アルツハイマーススコットランド 人材開発部 副部長）

ウィリアムズ バーバラ（ディメンシア オーストラリア クライアントサービス部 ゼネラルマネージャー）

進行：

徳田 雄人（NPO 法人認知症フレンドシップクラブ 理事）

【登壇者】

田中 規倫（厚生労働省 老健局総務課 認知症施策推進室 室長）

1999年に厚生省へ入省。2015年に大臣官房人事課副大臣秘書官、2016年に大臣官房国際課課長補佐を歴任。2017年7月より現職に就任。

ジム ピアソン（アルツハイマースコットランド ポリシー・リサーチ ディレクター）

現在、アルツハイマースコットランドの政策研究ディレクターとして、組織における公共政策開発、広報活動、および認知症研究への参画をリードしている。主要なステークホルダーと協力し、スコットランドの認知症国家戦略における各種施策が地域および個人レベルで確実に実施されるよう管理する役割を担っている。また認知症の人や介護者が、アルツハイマースコットランドや国に対して、効果的に当事者の声を届け、国や地域における政策、実践、研究に影響を与えることができるようにするために、国・地域レベルでのネットワークを支援している。さらに現在は、欧州横断の組織であるアルツハイマーヨーロッパのボードメンバーとしても活動している。

マッカーシー スーザン（ディメンシア オーストラリア クライアントサービス部

エグゼクティブディレクター）

ディメンシア オーストラリアのクライアントサービス担当エグゼクティブディレクターとして、認知症の人や家族及び介護者のための全国的な支援サービスならびに教育を担当している。その他、全国認知症ヘルプライン、若年性認知症のキーマンプログラム、認知症アドバイザリーサービス、カウンセリング、および認知症の人やその介護者、地域社会のための教育など、各種プログラム提供に関するマネジメントを行っている。これまでにアジア太平洋地域、東南アジアおよび東地中海、ラテンアメリカおよびアフリカでの、教育やサービス提供プロジェクトについて経験を積んでいる。アルツハイマー オーストラリアに参画する以前は、大手企業や国際NGO団体でゼネラルマネージャーとして様々なプログラムのマネジメントを行ってきた。そのため、これらの国々をはじめとする文化的に多様な環境下において、サービス、ガバナンスシステム、プログラム管理フレームワークなどの豊富な業務経験をもつ。ニューサウスウェールズ大学にて科学学士号ならびに公衆衛生学修士号を取得している。

猿渡 進平（医療法人静光園 白川病院 医療連携室長）

1980年福岡県大牟田市生まれ。同居の祖母が認知症になったことが理由で福祉の道に進む。2002年医療法人静光園白川病院に入社。その後、大牟田市地域包括支援センター、厚生労働省社会・援護局の出向などを経て現職。上記のほかに、一般社団法人人とまちづくり研究所理事、NPO法人しらかわの会理事・事務局長、NPO法人大牟田ライフサポートセンター理事、大牟田市認知症ライフサポート研究会コアメンバー、100dfc japan 立ち上げ実行委員会、NPO法人認知症フレンドシップクラブ認知症まちづくりファシリテーターチームなど、社会活動に従事している。

澤登 久雄（社会医療法人財団 仁医会 牧田総合病院 地域ささえあいセンター センター長）

2007年、同法人が委託・運営する地域包括支援センター センター長に就任。2008年4月地域の医療・介護事業者への呼びかけ、「おおた高齢者見守りネットワーク」（愛称：みま～も）を発足。現在、協賛事業所・企業・団体は90を超える。2009年8月。当団体にて「SOSみま～もキーホルダー登録システム」を生み出す。このシステムは、2012年度より大田区サービス「高齢者見守りキーホルダー事業」として移行。65歳

以上の区民全てが利用可能なシステムとなり、2018年8月末、大田区内登録者は43400名。このシステムについては、全国の自治体で導入が進んでいる。

資格免許： 社会福祉士・介護支援専門員・介護福祉士

おおた高齢者見守りネットワーク公式HP <http://mima-mo.net/>

おおもり語らいの駅公式HP <http://www.makita-hosp.or.jp/katarai/>

山崎 健一（GrASP 株式会社 代表取締役社長／若年性認知症デイサービス トポス和果 代表）

2006年～2012年愛光病院（精神科）主任作業療法士として勤務。2015年1月GrASP株式会社起業、同年6月横浜市ではじめての若年性認知症デイサービストポス和果（わか）のサービスをスタート。現在、若年性認知症の人の心身の状態に合わせた支援を行いながら、どのような状態になっても変化が少ない環境で連続性のあるサービスが受けられるよう、就労継続支援B型（認知症初期）、認知症対応型通所介護（認知症中期・後期）を合わせたコミュニティサービス開設の準備を進めている。

ヴォイト リンゼイ（アルツハイマースコットランド リンクワーカー）

アルツハイマースコットランドにおいて経験豊富なリンクワーカーとして活動している。一般及び精神科領域の看護師資格を有しており、特に認知症の人々との協働を専門としている。これまでの33年以上のキャリアの中で、認知症の人々へアプローチが施設を中心とするものから、現在スコットランドで実施されているような、より全人的なアプローチへ進歩していく過程をみてきた。個人的な経験およびこれまでの看護師としての経験から認知症への関心が培われ、これらが認知症の人や家族の経験を理解するための独自の洞察力の源となっている。今回の来日を大変心待ちにし、このグローバル課題を話し合うことを非常に楽しみにしている。

リエットディック アンナ マリア（ディメンシア オーストラリア ディメンシアアドバイザー）

現在、キャンベラにあるディメンシア オーストラリアにおいて認知症アドバイザーとして勤務している。これまでに、Woden Community Service でケースマネージャーとして従事し、7年ほど認知症分野に関わる業務を行ってきた。認知症の人やその家族、さらに介護者にとって、それぞれが望む最高の結果が実現されることを願って日々の業務に取り組んでいる。これまでに化学に関する学位を取得しており、様々なイベントを企画することを得意としている。

進藤 由美（国立長寿医療研究センター 企画戦略局 リサーチコーディネーター）

早稲田大学大学院人間科学研究科、米国コロンビア大学大学院国際・公共政策学研究科修了。大学、大学院で心理学を学んだ後、東京都内にある通所介護事業所に勤務。2000年に米国に渡り、大学院にて公共経営学を学びつつ、現地に住む日本人・日系人高齢者の生活相談等に従事した。2009年に帰国後、ニッセイ基礎研究所（プロジェクト研究員）、認知症介護研究・研修東京センター（主任研究主幹）を経て、2016年4月より現職。

栗田 主一（東京都健康長寿医療センター 研究所 研究部長）

1984年山形大学医学部卒業。2001年～2005年東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野助教授。2005年～2009年仙台市立病院神経科精神科部長兼認知症疾患センター科長。2009年より東京都健康長寿医療センター研究所自立促進と介護予防研究チーム研究部長。2013年より同センター認知症疾患医療センター長兼務、2015年より同センター認知症支援推進センター長兼務。2018年より東京都健康長寿医療センター研究所自立

促進と精神保健研究チーム研究部長（名称変更）。日本老年精神医学会理事、日本認知症学会理事、東京都認知症対策推進会議委員など。

余語 卓人（厚生労働省 老健局総務課 認知症施策推進室 室長補佐）

1995 年 4 月に厚生省入省。2014 年 7 月より大臣官房人事課厚生労働審議官総括秘書、2015 年 10 月より社会・援護局福祉基盤課課長補佐を歴任。2017 年 4 月より現職。

ピーティー ジャン（アルツハイマースコットランド 人材開発部 副部長）

アルツハイマースコットランドの人材開発部門副部長として、組織全体の教育と実践的なイノベーションをリードしている。アルツハイマースコットランドは、78 名のリンクワーカーを含む 600 名の有給スタッフと、1000 名のボランティアによって組織されており、この多様な人材をサポートしより活発にするために、診断後支援のスキルや知識を積み上げ共有する実践的なコミュニティを設立し、一貫した訓練を促進するツールとリソースを開発してきた。ソーシャルワーカーとしての経験のほか、これまではコンサルタント業を営み、さらに母親の介護者としてアルツハイマースコットランドから非常に前向きなサポートを提供された経験も併せもつなど、様々な経験を積んだ後にアルツハイマースコットランドに参画した。

ウィリアムズ バーバラ（ディメンシア オーストラリア クライアントサービス部 ゼネラルマネージャー）

ディメンシア オーストラリアのクライアントサービス部門担当ゼネラルマネージャーとして、オーストラリア首都特別地域、およびニューサウスウェールズ州において提供される全てのサービスの管理業務を担っている。これまで、障害者福祉に関わる業務、および金融関連業務に従事した後、認知症アドバイザーとしてのキャリアをスタートさせ、これまで 13 年間にわたりディメンシア オーストラリアに在籍している。これまでにソーシャルワークの学士号、教育学およびマネジメント学に関する課程を修め、現在は、制度改革や個人のエンパワメントを通じて、認知症の人や家族のウェルビーイングの向上に情熱を注いでいる。

徳田 雄人（NPO 法人認知症フレンドシップクラブ 理事）

1978 年生まれ。2001 年東京大学文学部を卒業後、NHK のディレクターとして医療や介護に関する番組を制作。2009 年に NHK を退職し、認知症にかかわる活動を開始。2010 年より現職。NPO の活動とともに、認知症や高齢社会をテーマに、自治体や企業との協働事業やコンサルティング、国内外の認知症フレンドリーコミュニティに関する調査、認知症の人と家族のためのオンラインショップ dfshop の運営などを行っている。

【日本医療政策機構】

黒川 清（日本医療政策機構 代表理事）

東京大学医学部卒。1969 年渡米、1979 年 UCLA 内科教授。1983 年帰国後、東京大学内科教授、東海大学医学部長、日本学術会議会長、内閣府総合科学技術会議議員（2003-2007 年）、内閣 特別顧問（2006-2008 年）、世界保健機関（WHO: World Health Organization）コミッショナー（2005-2009 年）などを歴任。国会福島原発事故調査委員会委員長（2011 年 12 月-2012 年 7 月）、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund: Global Health Innovative Technology Fund）の Chair and Representative Director（2013 年 1 月-2018 年 6 月）。現在、内閣官房健康・医療戦略室健康・医療戦略参与、マサチューセッツ工科大学客員研究員、世界認知症協議会（WDC: World Dementia Council）メンバー、ハーバード公衆衛生大学院 John B. Little（JBL）Center for Radiation Sciences 国際アドバイザリーボードメンバー、政策研究大学院大学名誉教授、東京大学名誉教授。

乗竹 亮治（日本医療政策機構 理事・事務局長）

日本医療政策機構設立初期に参画。慢性疾患領域における患者アドボカシー団体の国際連携支援プロジェクトや、震災復興支援プロジェクトなどをリード。その後、国際 NGO にて、アジア太平洋地域を主として、途上国や被災地での防災型医療施設の建設や、途上国政府と民間企業および国際 NGO が共同参画する医療アセスメント事業などを実施。エンジニアリングやデザインをはじめとした異なる専門領域のステークホルダーを結集し、医療健康課題に対処するプロジェクトに各国で従事。また、米海軍と国際 NGO らによる医療人道支援プログラムの設計など、軍民連携プログラムにも多く従事。WHO（世界保健機関）'Expert Consultation on Impact Assessment as a tool for Multisectoral Action on Health'ワーキンググループメンバー（2012）。慶應義塾大学総合政策学部卒業、オランダ・アムステルダム大学医療人類学修士。米国医療支援 NGO Project HOPE プロボノ・コンサルタント。政策研究大学院大学客員研究員。東京都「超高齢社会における東京のあり方懇談会」委員。

栗田 駿一郎（日本医療政策機構 シニアアソシエイト）

横浜市生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科卒、地方自治を専攻。卒業後は、東京海上日動火災保険株式会社に入社し、保険金支払部門において自動車事故対応などに従事した。高齢者による自動車事故の対応経験を通じて、超高齢社会の課題を痛感し、日本医療政策機構に参画。自身の祖母も 20 年前から認知症であるため強い問題意識を持っており、日本医療政策機構でも認知症官民連携プロジェクトを担当している。また認知症に関する各種検討会への参画や講演、記事の執筆なども行っている。早稲田大学大学院政治学研究科修了（公共経営修士号）。愛知県「オレンジタウン構想推進プロジェクト WG」委員、横浜市青葉区「認知症普及啓発チーム」委員。

Japan-UK-Australia Global Expert Meeting on Creating Dementia-Friendly Communities

Longer life expectancies have made aging an issue in every country around the world, led by Japan. In Japan, there have been efforts to construct a Community-based Integrated Care System that enables elderly citizens to live with peace of mind in familiar places. This need is also recognized in the field of dementia care, where the development of dementia-friendly communities is being promoted in each region to help those with dementia to stay in comfortable, familiar environments as much as possible. To build such communities, it is essential that the diverse needs of people living with dementia and their families are identified and responded to effectively.

There is a period when people with dementia and their families must reorganize their daily routines, particularly between diagnosis and the start of medical care and nursing services. It is during this period that opportunities for employment and social participation would be a significant source of support. To that end, collaboration among multiple stakeholders is key, and must involve not only healthcare service providers but also local residents and private companies. This alliance will allow communities to develop in a way that allows people with dementia and their families to participate.

To further the goal of promoting dementia-friendly communities, we will discuss and share experiences from domestic and overseas initiatives for building connections between people with dementia, their families, and the community at this meeting, as well as learn of each other's challenges and visions for the future.

- **Date:** Thursday, February 14, 2019 13:00-17:00 (Doors open: 12:30)
- **Venue:** Gakushikaikan 203 (3-28 Kandanishiki-cho Chiyoda-ku, Tokyo)
- **Organizer:** Health and Global Policy Institute (HGPI)
- **Supporter:** Designing for Dementia
- **Program:** (Titles omitted.)
- 12:30- Doors Open
- 13:00-13:05 Opening Remarks**
Kiyoshi Kurokawa (Chairman, HGPI)
- 13:05-13:10 Explanatory Introduction**
Shunichiro Kurita (Senior Associate, HGPI)
- 13:10-13:30 Keynote Lecture 1 “Promoting Dementia-Friendly Communities in Japan”**
Norimichi Tanaka (Director, Office for Dementia Policy, Health and Welfare Bureau for the Elderly;
Ministry of Health, Labour and Welfare (MHLW))
- 13:30-13:50 Keynote Lecture 2 “National Dementia Strategy and Alzheimer Scotland’s Activities”**
Jim Pearson (Director of Policy and Research, Alzheimer Scotland)
- 13:50-14:10 Keynote Lecture 3 “National Framework and Dementia Australia”**
Susan McCarthy (Executive Director, Client Services, Dementia Australia)
- 14:20-15:50 Roundtable Discussion 1**
“Challenges and future outlook for the effort to enable people with dementia to be accepted as full
members of society from the perspective of those working in the field”
- 15:50-16:55 Roundtable Discussion 2**
“Challenges and future developments for existing healthcare systems – Towards creating a society
in which people with dementia can live with dignity”
- 16:55-17:00 Closing and Future Plans**
Ryoji Noritake (CEO and Board Member, HGPI)

*Simultaneous translation will be available throughout the event.

■ **About the Roundtable Discussion:**

➤ **Roundtable Discussion 1**

“Challenges and future outlook for the effort to enable people with dementia to be accepted as full members of society and future outlook from the perspective of those working in the field”

In this session, front-line professionals from Japan, the UK, and Australia will discuss and share their experiences of striving to unify people with dementia, their families, and the community every day in the field. After introducing case studies from each country to highlight the differences between each system, we will share insights and lessons learned for creating environments where people with dementia and their families are empowered to retain comfortable positions as contributing members of society.

14:20-14:55 Case Studies from speakers

14:55-15:50 Discussion

Speakers: (Titles omitted.)

Shinpei Saruwatari (Promoter for Consultation Support Integration, Omuta City Hall / Director, Shirakawa Hospital Comprehensive Community Health Office)

Hisao Sawanobori (Director, Community Support Center, Makita General Hospital)

Kenichi Yamazaki (President, GrASP K.K. / Representative, Day Service Center Waka for Early-onset Dementia)

Lindsay Voigt (Link Worker, Alzheimer Scotland)

Anna Maria Rietdyk (Dementia Advisor, Dementia Australia)

MC:

Yumi Shindo (Research Coordinator, Planning and Strategy Bureau, National Center for Geriatrics and Gerontology)

➤ **Roundtable Discussion 2**

“Challenges and future developments for existing healthcare systems – Towards creating a society in which people with dementia can live with dignity”

Touching upon the points raised in the previous session, during this session we will discuss critical challenges facing current healthcare systems and how those healthcare systems should be shaped in the future. A central challenge in supporting front-line professionals working with patients every day is the question of how to promote efforts that involve supportive local residents in planning how to overcome the burden facing shorthanded regions not only in Japan but in every advanced country with an aging population. We will discuss efforts and challenges in Japan, the UK, and Australia to examine the ideal form for a society in which people with dementia can be active members and live with dignity that involves local residents and does not rely only on healthcare specialists.

Speakers: (Titles omitted.)

Shuichi Awata (Research Team Leader, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology)

Takuto Yogo (Assistant Director, Office for the Advancement of Dementia Measures; Health and Welfare Bureau for the Elderly; MHLW)

Jan Beattie (Alzheimer Scotland, Deputy Director of Workforce Development)

Barbara Williams (General Manager, Client Services, Dementia Australia)

MC:

Takehito Tokuda (Board Member, Dementia Friendship Club)

【Speakers】

Norimichi Tanaka (Director, Office for Dementia Policy, Health and Welfare Bureau for the Elderly;

Ministry of Health, Labour and Welfare (MHLW))

1999: Joined Ministry of Health and Welfare (MHW) 2015 –2016: Secretary to State Minister of Health, Labour and Welfare, Personnel Division, Minister's Secretariat in MHLW 2016 –2017: Deputy Director, International Affairs Division, Minister's Secretariat in MHLW 2017 –present: Director, Office for dementia policy, Health and Welfare Bureau for Elderly in MHLW

Jim Pearson (Director of Policy and Research, Alzheimer Scotland)

Mr. Jim Pearson is Alzheimer Scotland's Director of Policy & Research. He leads the organisation's public policy development, campaigning activities and engagement in dementia research. He is responsible for working with key stakeholders to ensure that the commitments of Scotland's National Dementia Strategy are delivered at local and individual level. He also supports Alzheimer Scotland's national and local involvement networks which ensure that people with dementia and carers have an effective voice to inform the work of Alzheimer Scotland and to influence dementia policy, practice and research nationally and locally. He is also a member of the Alzheimer Europe Board of Directors.

Susan McCarthy (Executive Director, Client Services, Dementia Australia)

Ms. Susan McCarthy has responsibility for nationwide support services and education for people living with dementia, their carers and families. She manages the delivery of the national dementia helpline, the younger onset dementia key worker program, dementia advisory services, counselling, and education for people living with dementia, carers and community. She has a Bachelor of Science, University of NSW and a Masters of Public Health with the University of NSW. She has extensive experience in developing and implementing education and service delivery projects in Asia Pacific, South East Asia and Eastern Mediterranean, Latin America and Africa. Prior to joining Alzheimer's Australia, Susan worked for large corporates and international NGO in various program management and General Manager positions. The roles have allowed Susan to work within many culturally diverse environments, including the implementation of services, governance systems and program management frameworks within Australia, Asia Pacific, South East Asia, Eastern Mediterranean, Latin America and Africa.

Shinpei Saruwatari (Promoter for Consultation Support Integration, Omuta City Hall / Director, Shirakawa Hospital

Comprehensive Community Health Office)

Mr. Shinpei Saruwatari was born in Omuta City, Fukuoka Prefecture in 1980. His grandmother's dementia diagnosis inspired him to pursue a career in social welfare. He joined Shirakawa Hospital in 2002. He assumed his current position after temporary transfers to Omuta Community Support Center and the Ministry of Health, Labour and Welfare Social Welfare and War Victims' Relief Bureau. He engages in social activities in the following capacities:

- General Incorporated Association of Human Urban Design Research Institute, Director
- Shirakawa Association (NPO), Director and Head of Secretariat
- Omuta Life Support Center (NPO), Director
- Omuta Dementia Life Support Society, Core Member
- 100 DFC (Dementia Friendly Community) Japan, Founding Member
- Dementia Friendship Club (NPO), Facility Team Member

Hisao Sawanobori (Director, Community Support Center, Makita General Hospital)

Mr. Hisao Sawanobori is assumed the role of Center Director for the Ota-ku Community Support Center in 2007. In April 2008, he created the Ota-ku Elderly Care Network (known as “Mima-mo,” which is short for “watch over” in Japanese), which currently has cooperative arrangements with over 90 corporations and groups. In August 2009, Mima-mo created a new system called the “SOS Mima-mo Keychain Registration System.” In 2012, this system transitioned into a new system called the “Elderly Resident Protection Keychain Project” to help watch over older people in Ota-ku. All Ota-ku residents age 65 and older can access the network. As of 2018, it had 43,400 citizens registered. Other local governments are currently working to introduce this system.

Qualifications: Social Worker, Long-Term Care Support Specialist, and Care Worker

Ota-ku Elderly Care Network official homepage: <http://mima-mo.net/>

Omori Katarai Station official homepage: <http://www.makita-hosp.or.jp/katarai/>

Kenichi Yamazaki (President, GrASP K.K. / Representative, Day Service Center Waka for Early-onset Dementia)

Mr. Kenichi Yamazaki worked as Chief Occupational Therapist at Aiko Hospital’s Psychiatry Department from 2006 to 2012. In January 2015, he founded GrASP and, in June 2015, he created “Topos Waka,” the first day service in Yokohama City for people with young-onset dementia. Currently, while working to provide people with young-onset dementia with personalized support that caters to their mental and physical conditions, he is preparing to launch a community service aimed at providing continuous services in stable environments to people with early, middle, and advanced dementia.

Lindsay Voigt (Link Worker, Alzheimer Scotland)

Ms. Lindsay Voigt is an experienced Alzheimer Scotland Post Diagnostic Link Worker.

She is qualified in general and mental health nursing, specialising in working with people with dementia. Over a 33 year career she has seen care provision for people with dementia progress from institutional settings to the more holistic approaches we have today in Scotland. Lindsay’s interest in dementia developed from personal experience and from her nursing practice, which provided her with unique insights into understanding the lived experience of people with dementia and their families.

She is delighted to be visiting her Japanese colleagues and looks forward to very much to discussion of this important global issue.

Anna Maria Rietdyk (Dementia Advisor, Dementia Australia)

Ms. Anna Maria Rietdyk is a Dementia Advisor working for Dementia Australia in Canberra. She has previously worked for Woden Community Service as a case manager and has worked with Dementia for 7 years. She has a Chemistry Degree and enjoys organising events. She has a heartfelt desire to achieve the best outcomes for people with dementia, their families and carers.

Yumi Shindo (Research Coordinator, Planning and Strategy Bureau, National Center for Geriatrics and Gerontology)

Ms. Yumi Shindo is Research Coordinator of the Planning Strategy Department at the National Center for Geriatrics and Gerontology. She holds a Bachelor of Human Science from Waseda University and a Master of International and Public Affairs from Columbia University. After studying psychology at university and graduate school, she worked at the Visiting Care Facility in Tokyo. She went to the United States in 2000 and studied Public Management at graduate school while providing life consultation to elderly Japanese people living in the region. She returned to Japan in 2009. Prior to joining the National Center for Geriatrics and Gerontology in April 2016, she was Project Researcher at the NLI Research Institute and Lead Researcher at the Dementia Care Research and Training Tokyo Center.

Shuichi Awata (Research Team Leader, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology)

Dr. Shuichi Awata is a team leader of Research Team for Promoting Independence and Mental Health at Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology (TMIG), a director of Medical Center for Dementia at Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital (TMGH), a director of Japanese Psychogeriatric Society (JPS), a director of Japan Society for Dementia Research (JSDR), and a member of Council for Promoting Dementia Measures in Tokyo. After graduating University of Yamagata Faculty of Medicine, he served as an associate professor of Department of Psychiatry, Tohoku University (2001-2005), and a director of Division of Neuropsychiatry and Medical Center for Dementia, Sendai City Hospital (2005-2009).

Takuto Yogo (Assistant Director, Office for the Advancement of Dementia Measures; Health and Welfare Bureau

for the Elderly; MHLW)

1995: Joined Ministry of Health and Welfare (MHW) 2014-2015: Secretary to Vice- Minister for Policy Coordination, Ministry of Health, Labour and Welfare, Personnel Division, Minister's Secretariat in MHLW 2015-2017: Deputy Director, Community Welfare and Services Division, Social Welfare and War Victims' Relief Bureau in MHLW 2017-present: Deputy Director, Office for Dementia Policy, Health and Welfare Bureau for the Elderly in MHLW

Jan Beattie (Alzheimer Scotland, Deputy Director of Workforce Development)

Ms. Jan Beattie is Alzheimer Scotland's Deputy Director of Workforce Development, leading on the charity's learning and practice innovation. Alzheimer Scotland's workforce extends to 600 paid staff supported by 1000 volunteers including 78 Post Diagnostic Support Link Workers. To support and develop this unique workforce, she has established a community of practice that builds and shares PDS skills and knowledge and developed the tools and resources that promote practice consistency. She came to Alzheimer Scotland with a diverse career background. A graduate social worker, prior to joining Alzheimer Scotland she ran her own consultancy business and experienced the very positive support Alzheimer Scotland offers as a carer for her mother.

Barbara Williams (General Manager, Client Services, Dementia Australia)

Ms. Barbara Williams is the General Manager, Client Services with Dementia Australia, overseeing all services provided across ACT and NSW. She has previously worked in the disability and finance industries, and has worked with Dementia Australia for the last 13 years, originally starting as a Dementia Advisor. She has a Bachelor of Social Work, Diploma of Education and a Diploma of Management and is passionate about improving the wellbeing of people living with dementia and their families, through progressing systemic change and individual empowerment.

Takehito Tokuda (Board Member, Dementia Friendship Club)

Mr. Takehito Tokuda is the Director of Dementia Friendship Club, an NPO. He graduated from the University of Tokyo, Faculty of Letters in 2001. After graduation, he became a director at NHK, where he produced programs on medical and nursing care. He left NHK in 2009 to begin activities related to dementia. He assumed his current role as Director in 2010. In addition to his activities with Dementia Friendship Club, he is involved in various other activities related to the themes of dementia and the aging society, including acting as a consultant on projects with local governments and companies, conducting surveys on domestic and international dementia-friendly communities, and managing the online shop for people with dementia and their families called "dfshop."

【Health and Global Policy Institute】**Kiyoshi Kurokawa** (Chairman, HGPI)

Dr. Kiyoshi Kurokawa is a professor emeritus at the National Graduate Institute for Policy Studies (GRIPS), Member of World Dementia Council (WDC), International Scientific Advisory Committee (ISAC), and Harvard T.H. Chan School of Public Health, John B. Little (JBL) Center for Radiation Sciences. After graduating the University of Tokyo Faculty of Medicine, he served as a professor at School of Medicine of UCLA (1979-1984), University of Tokyo (1989- 1996), the dean of Tokai University School of Medicine (1996-2002), the president of Science Council of Japan (2003-2006), the science advisor to the Prime Minister (2006-2008), World Health Organization (WHO) commissioner (2005-2009), Chair and Representative Director of Global Health Innovative Technology (GHIT: 2013.1-2018.6) and the executive member of many other national and international professional societies. He was also the chairman of Fukushima Nuclear Accident Independent Investigation Commission by the National Diet of Japan from December 2011 to July 2012.

Ryoji Noritake (CEO and Board Member, HGPI)

Mr. Ryoji Noritake is the CEO, Board Member of Health and Global Policy Institute (HGPI), a Tokyo-based independent and non-profit health policy think tank established in 2004. He also serves as a pro-bono consultant for Project HOPE, a US-based medical humanitarian aid organization. Through HOPE and HGPI, he has led health system strengthening projects in the Asia-Pacific region and engaged in US Navy's medical humanitarian projects. His focus is a multi-sectoral approach for health issues such as public-private partnerships and civil-military coordination. He was a Working Group Member for the World Health Organization's "Expert Consultation on Impact Assessment as a tool for Multisectoral Action on Health" in 2012. He is a graduate of Keio University's Faculty of Policy Management, holds a MSc in Medical Anthropology from the University of Amsterdam, the Netherlands. He is currently a Visiting Scholar at the National Graduate Institute for Policy Studies, a member of Tokyo Metropolitan Government's Policy Discussion Roundtable for Super Ageing Society.

Shunichiro Kurita (Senior Associate, HGPI)

Originally from Yokohama City, Mr. Shunichiro Kurita graduated from Waseda University Faculty of Political Science and Economics, where he majored in Local Autonomy. After graduating, he began his career at Tokyo Marine & Nichido Fire Insurance Co., Ltd. During his time there, he was employed in the car accidents claims payment division, doing work related to car accidents. He was in charge of many car accident cases involving elderly people. His experience in the company and his interest in the issues of super-aging societies led to his decision to join Health and Global Policy Institute (HGPI). Having a grandmother who has lived with dementia for the past 20 years, Mr. Kurita has a personal interest in the issue, and is currently responsible for establishing Public-Private Partnership for dementia. He also participates in discussions and gives lectures and writes articles about dementia. In addition, He graduated from Waseda University Graduate School of Public Management (MPM) . He worked as a member of the working group, the Orange Town Project in Aichi Prefecture. And he is a member of Dementia public awareness team at Aoba Ward, Yokohama City.